水門・陸閘等の安全かつ適切な管理運用検討委員会（第１回）議事概要

日　時：平成２６年８月１日（金）１０：００～１２：００
場　所：中央合同庁舎２号館地下２階会議室
出席者：目黒委員長、磯部、重川、河合、田中、大石、村山、森各委員　他

１．主な議事

〇事務局より、検討委員会の設置目的、今後の進め方等について説明するとともに、操作・退避ルール、管理委託のあり方等について意見交換を行った。

２．主な意見

【議事（１）関係】

〇「閉める手引き」のパンフレットについていいものができたとは思うが、末端の操作員まで届いていない可能性がある。これは前回の委員会からの大きな課題である。実際に使う方々まで確実に伝わるようにして頂きたい。

【議事（２）関係】

〇前回委員会で議論したように、水門・陸閘というのは、まず数を減らしたり、自動化をしたり、というのが前提で、どうしても手動でやらないといけない、残ってしまったものについて議論するということを、最初に書くべきではないか。

〇常時閉鎖がどれぐらい有効なのか、統計までは出なくていいが、いくつかヒアリングをしていただきたい。常時閉鎖するのは大きな一つの手段ではないかと考える。

〇常時閉鎖によって発生する問題の大きさの検討もあった方がよい。使うときだけ開けることによるデメリットが「あるレベル」以下であれば、本当の有事を避けるために、日ごろの多少の苦労は皆でシェアするのが方向としては健全ではないか。

〇発生頻度の高いL1津波、リードタイムの長い遠地津波や高潮についての操作・退避ルールをきちんと決めておく必要があり、本委員会でそこを中心に検討してはどうか。

〇L2地震だから一律に避難するということでなく、操作可能な時間帯までに閉鎖を完了させられれば、その後に避難することも可能である。閉鎖することによる地域の減災効果も期待できる。命を大切にする範囲内で地域的事情を十分に勘案したマニュアルになるとよい。

〇本委員会である程度の操作・退避ルールの指針は示せるとしても、地域コミュニティの力、郷土愛の気持ちなどが地域によって大きく異なることを踏まえ、地域住民、消防団、民間企業等が一緒になって考えていくことを原則とすることが必要。

〇南海トラフの地震は結構長く揺れ、揺れの最中に人が動くことは基本的にできない。時間の積み上げは、かなり厳しい目で考えておく必要がある。

〇操作者に対する訓練を行うという点について、訓練と同時に、定期的に地域の人たちへ

の説明会をしておかないと、退避することについての賛同が得られないので、追加すべきである。

【議事（３）関係】

〇民間の保険はどのようなものに入られているのか、賠償責任も含まれているのか。また有償で委託されている場合、どれぐらいの金額のものなのかを整理頂きたい。

〇南海トラフの厳しいシナリオでは保険金は大変な金額になる。その保険金（に相当する額）を事前に使って、デフォルトとしての統廃合や常時閉鎖、遠隔操作や自動化を行うなどを指向することが必要ではないか。

〇操作委託の受け手は契約には素人の人が多いと思うので、せめて、契約書の内容を簡単にする、またはこれさえやっておけば後で責任を問われることはないといった必要最小限の内容を示せないか。

〇操作員が閉めなくて逃げ、それで町が津波に飲み込まれた場合、町全部を補償するということにはならないと思うが、どのあたりまでが責任かをひな形的に示せないか。

〇災害発生時に確実に操作がなされるためには、冬場の除雪とか、メンテナンス、そういうものを常日頃から誰かがやっていかなければならないが、民間がすべてを担うのは大変。行政がそこをカバーしてくれるのであれば、操作を民間が担ってもよいかもしれない。

〇公務員もスリム化されていく。管理委託はどうあるべきなのか、考えていくべきである。

〇今回の委員会の範疇ではないが、水門・陸閘の適切な開閉や常時閉鎖などの検討に加えて、本来は地域住民の住まい地も津波の危険性の低い地域へ少しずつ移動していただくことを合わせて考えるべき。

以　　上